ながおか防災かわら版

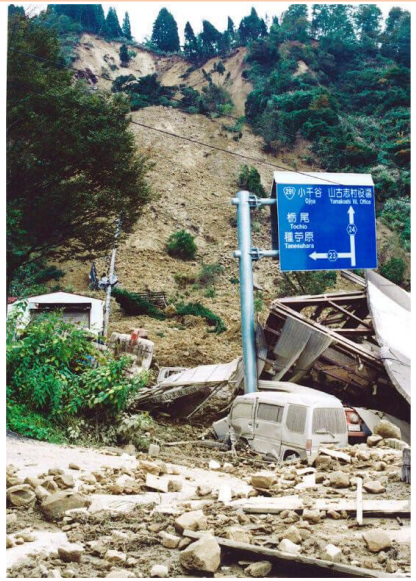
第4回
新潟県中越地震

令和４年10月17日発行
一般社団法人
長岡青年会議所
未来へ繋ぐ灯り委員会
後援　長岡市教育委員会

防災×長岡の精神性

わたし達の住む長岡で７・13水害、新潟県中越地震という２つの大きな災害が起こってから17年がすぎました。災害からの復興には長岡人の精神性が活かされてきました。『ながおか防災かわら版』はその史実と共に復興にかけた想いと精神性を５回シリーズでお伝えします。

新潟県中越地震



新潟県中越地震が発生

平成16年10月23日午後５時56分、川口地域を震源とする最大震度７の地震が発生しました。**山古志地域では震度６強**を観測しました。

山古志地域の様子

各地で大きな地すべりが発生し、道路が崩落、水道も電気も使えず、**全ての集落が孤立してしまいました。**外から助けをよぶこともできず、余震が続く中、集落の人たちは無事を確認しながら、家の下じきになった人やお年寄りを助け出しました。そして、**路上などで身をよせながら一夜を明かしました。**

避難所に集まる人たち

当時のことを教えて！

小川　卓さん
（３tive.design　代表）
写真家/マルチクリエイター

「当時中学２年生の時、友達の家で遊んでいたら**停電と同時に大きなゆれ**がきました。友達の家の中は物がたおれたり襖が外れたりと・・・何とか外に出たら家は大きくゆれていて、何度も来る余震の度に家がゆれてました。さすがに帰宅はむずかしいと思い友達の親の車で一泊させてもらい、翌朝帰る時、**各道が寸断**されてる話を聞いたので獣道のような所を歩いて帰ったのですが途中、通っていた学校の周りの**地すべり**がひどくて**唖然**としました。そこからの記憶が曖昧ですがその後、集団で大手高校に避難して12月に仮設住宅にうつることができました。大手高校の集団生活では、山古志は地域の交流が深かったおかげで、震災という非常時のなかで、本来つらいはずの避難所生活も子どもながら楽しくすごせました。震災で経験した車中泊のせいなのか車のガソリンをつねに半分以上入れておく癖が付きました。」

地すべりにより学校の道が寸断

長岡の精神性×防災

災害地域での取り組み
～震災を乗り越えて山古志へ想い～

小川さんの山古志での活動

「山古志の文化、伝統を守っていくために活動していますね。棚田、闘牛、錦鯉（にしきごい）どれを取ってもその地に人がいないと継続（けいぞく）、継承（けいしょう）できないものなので発信したり人に来てもらったりと試行錯誤（しこうさくご）してます。震災前は2200人いたのですが今は800人ほど。住むには一筋縄（ひとすじなわ）ではいかないですが、山古志の魅力（みりょく）を伝えて復興した山古志を伝えたいですね。」

山古志の闘牛

棚田の風景

復興に至った想いと長岡の精神性

常に危機感を持ち、非常時に備える

山古志地域（やまこしちいき）の復興には、いつ同じような地震（じしん）が起こるか分からないなかで、**二度と同じ被害（ひがい）を出さないための地域づくり**が行われてきました。このような常（つね）に危機感を持ち、普段（ふだん）の生活のなかでも非常時に備えることは、**『常在戦場（じょうざいせんじょう）の精神』**が活かされています。

震災直後の羽黒トンネル　復興後の羽黒トンネル

常在戦場の精神の活用法

普段の生活のなかでも、非常時（ひじょうじ）に備（そな）えることはとても大切なことです。**非常時の備えについてお家で話してみてください。**家庭で災害（さいがい）を考えることは安全な家庭づくり・地域づくりにつながるのではないでしょうか。

メッセージ折り鶴募集

新潟県中越地震から18年が経ちます。犠牲（ぎせい）になられた方々への追悼（ついとう）と支援（しえん）の感謝（かんしゃ）を地域で共有する復興の記念行事が、地震発生の10月23日（日）に、アオーレ長岡ナカドマと妙見（みょうけん）メモリアルパーク、山古志地域、川口地域で行われます。**みなさんが作るメッセージ折り鶴を各会場の献花台（けんかだい）にそえさせていただきます。**メッセージ折り鶴作成にご協力いただける小学校へは折り紙をお渡しします。本かわら版と共に配信した学校用アンケート、または長岡青年会議所（左記バックナンバーQRコードより）へ問い合わせください。

写真・参考文献の提供元はこちらから

ながおか防災かわら版バックナンバー

ご意見・ご感想お聞かせください。

アンケート